

楊洲周延画

澤村屋版



五厘
下注
たま



五
箱
の上
の
ま
き

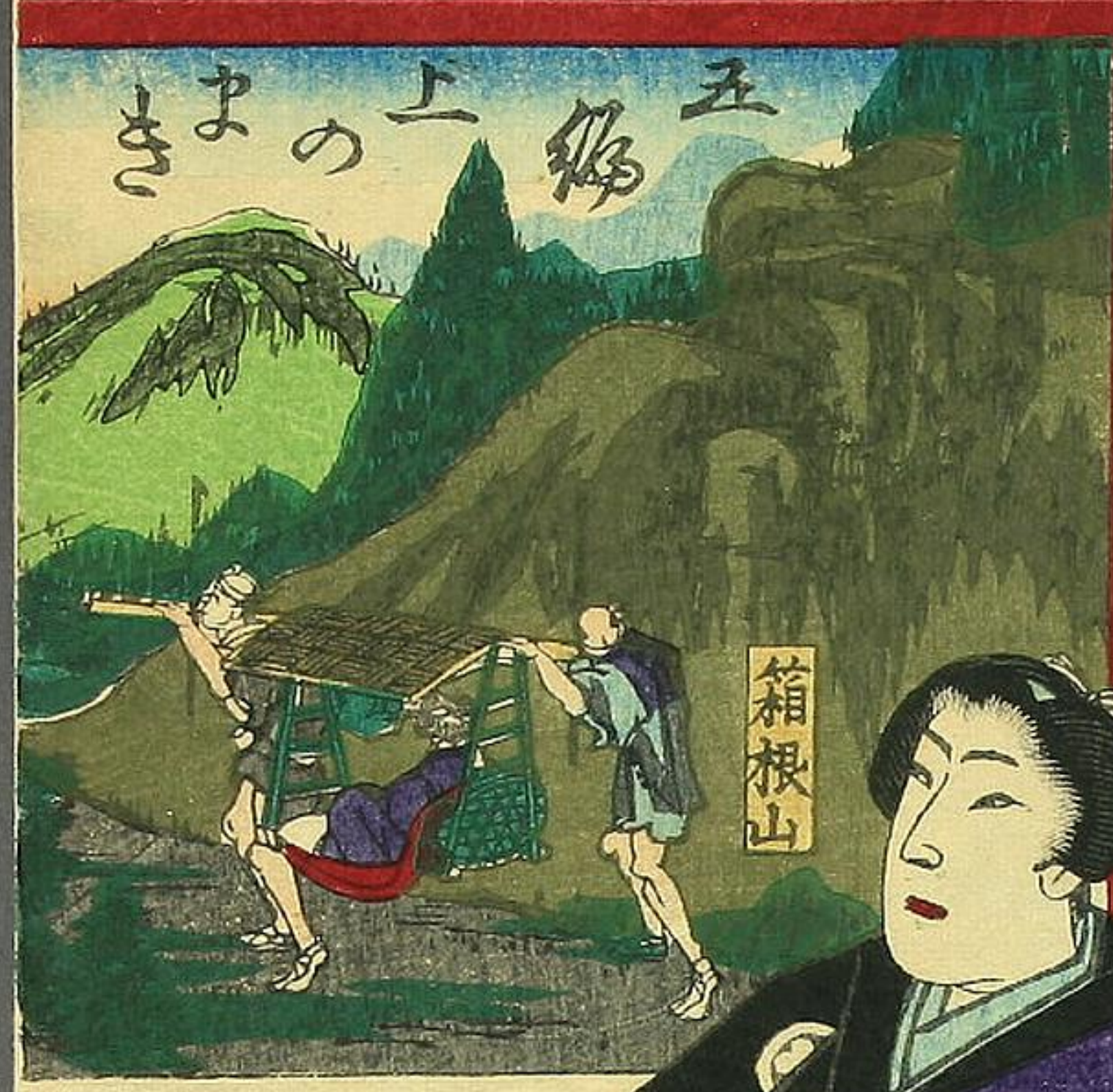
箱根山

明良二葉抄

万亭應賀作



三



明良二葉抄

万亭應賀作

三



J6902590

九景



九段坂

おの小車ハ

そなたの

玉の汗

登り

かき

万亭應賀

明良二葉艸五編

上の巻

一春日の局名を偽りと御切手
門出次男七之助同道ふて
駿府へおもむきある事
一同人小田原の旅館に盗賊の懸
あつて夜中出立しぬ事
一同人箱根山にて盗賊を見つゝ
られ雲助に止めらるゝ事
一同人雲助の難義よりあつて
駿府へ日づあふありて宿を
取ぬ事

下の巻

一春日の局駿府の旅館に於
男山と拜し江戸へ向ひて一世
の名残り残すの時俄にふ
大雷とるる事
一局七之助は末期の遺言とし
て諸家への書置と渡ぬ事
一 大御所の御狩雷雨は付御見
合はる事
一局駿府の奥へおもむいた阿茶の局
を以てひそく御目見を願ふ事

万亭應賀誌

二葉中五上

あるまじき
青山伯耆守忠俊
此候へ播磨守嫡男よて

本國へ三河

二代君よ仕て小田原

改ふ高名の

御感状と

も高名ありて

終ふ従四位

侍従ふ昇りぬ

竹千代君の御傳三候の

中の一賢士あり



酒井雅楽守忠世
此候へ河内守の

嫡男よて

本國へ三河

徳川幕府よ

由緒をよび

勲功あるを

めつて

神

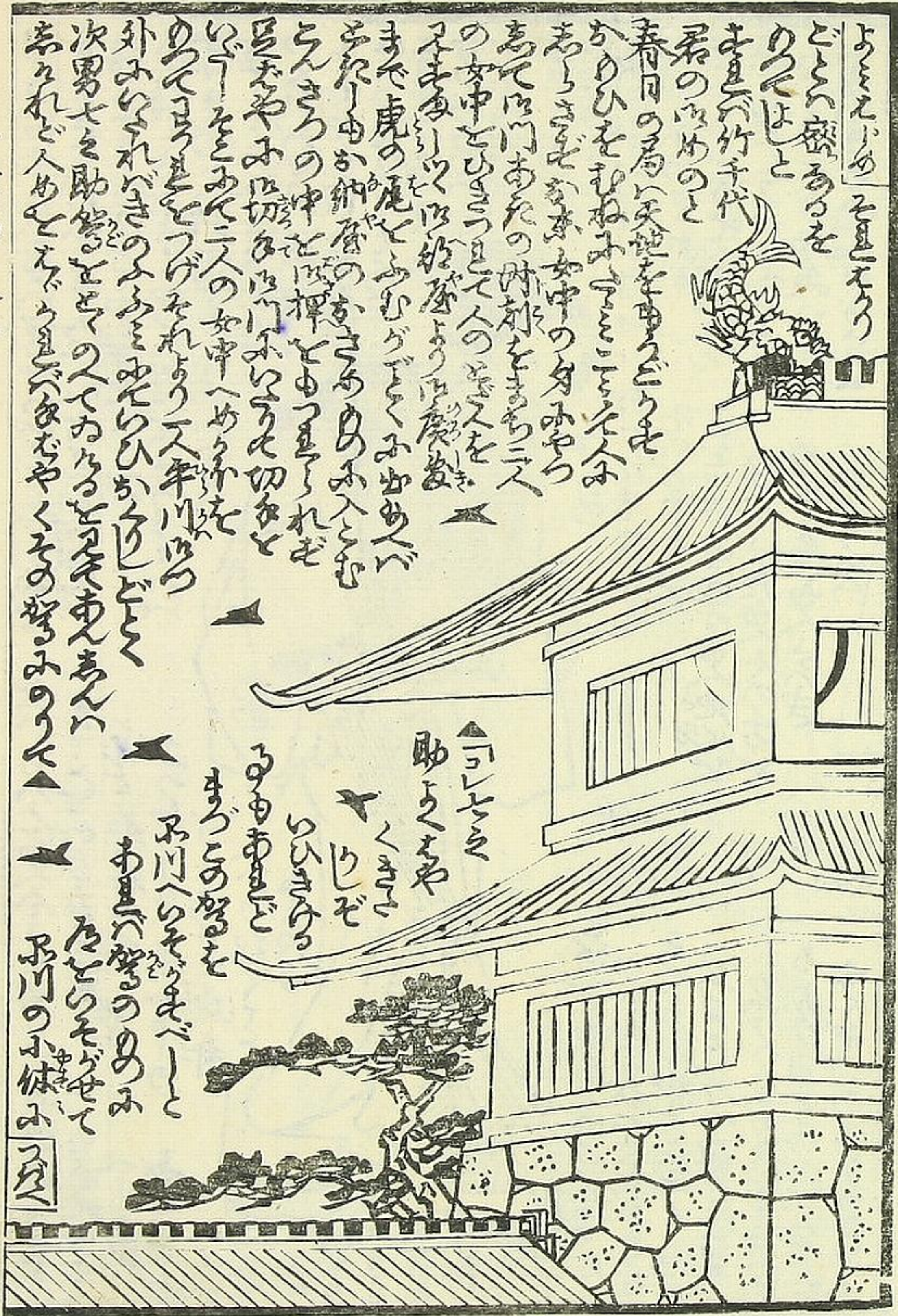
君白旗と

ゆふ竹千代君の御傳

三候の中の一賢士あり



上編五





つぎ 武者
 とりのを
 あつたれ
 さしを一生
 よまのり
 ちちの者
 とけがせ
 まはとせ
 ろふ子とあふ
 母のまを
 七之助といふ
 きつめしめぬま
 人のまはたきま
 ぞあつたれ
 たちまを
 りつやまを
 ごとくあつたれ
 四下のとかく
 かる家あつたれ

とれ
 早ま
 ての者
 あつたれ
 せよと

あつたれ
 七之助を
 を家の
 トあつたれ
 せよと
 ぬまの
 金あつたれ
 まよとあつたれ
 あつたれ
 さのあつたれ
 ちんせと
 上下のあつたれ
 あつたれ
 とのひる
 つぎ

二五



つぎ
 武者
 とりのを
 あつたれ
 さしを一生
 よまのり
 ちちの者
 とけがせ
 まはとせ
 ろふ子とあふ
 母のまを
 七之助といふ
 きつめしめぬま
 人のまはたきま
 ぞあつたれ
 たちまを
 りつやまを
 ごとくあつたれ
 四下のとかく
 かる家あつたれ

あつたれ
 七之助を
 を家の
 トあつたれ
 せよと
 ぬまの
 金あつたれ
 まよとあつたれ
 あつたれ
 さのあつたれ
 ちんせと
 上下のあつたれ
 あつたれ
 とのひる
 つぎ

あつたれ
 さのあつたれ
 ちんせと
 上下のあつたれ
 あつたれ
 とのひる
 つぎ

二五

二五



二葉抄五十一

高雄山講中

大山講中



二葉抄五十一



ついでに...
おのれ...
ま...
七...
く...
ま...
く...

大...
ま...
ら...
ま...
ま...
ま...
ま...
ま...

ま...
ま...
ま...
ま...
ま...
ま...
ま...
ま...



ま...
ま...
ま...
ま...
ま...
ま...
ま...
ま...

ま...
ま...
ま...
ま...
ま...

ま...
ま...
ま...
ま...
ま...
ま...
ま...
ま...



万亭應賀作

明良二葉抄

初編より追々出版

朝鮮異聞四冊續切

繪奉一代紀物品々

上等色入小本品々

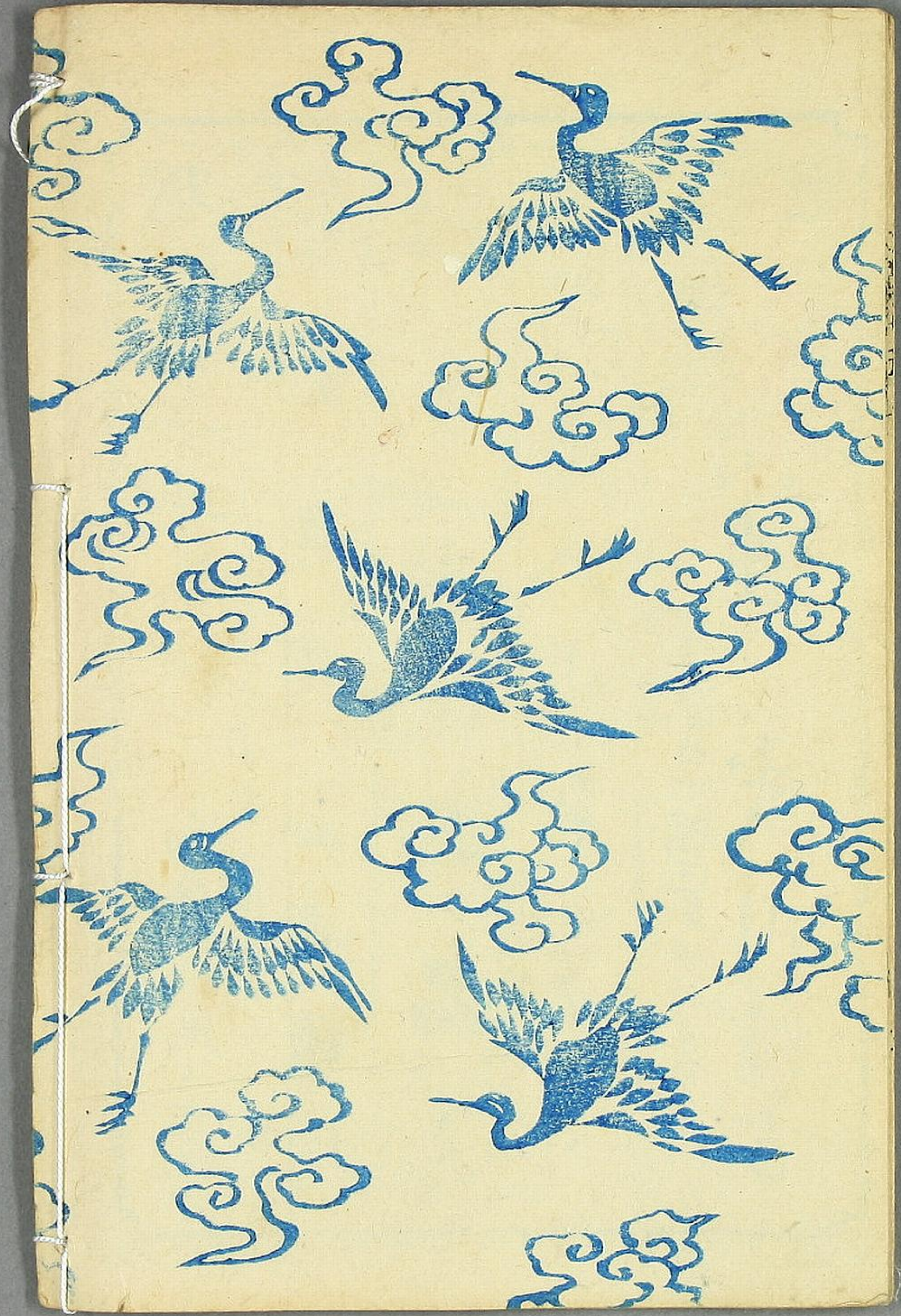
地本錦繪

問屋

武川清吉

團扇

東京日本橋區本銀町二丁目角

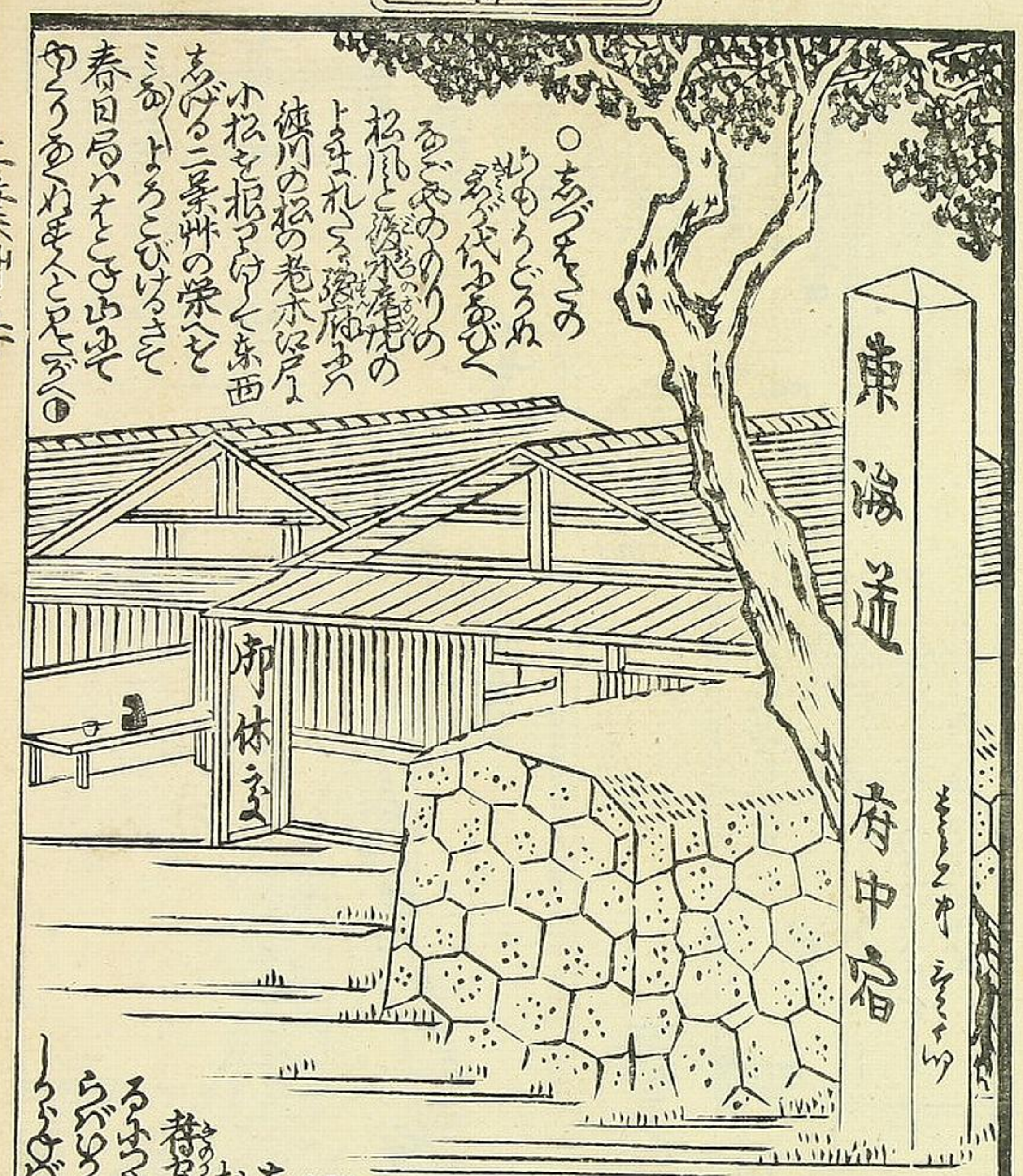


揚洲周延画

澤村屋版



下編五



○まじまじの
 のりいひの
 多うたもあひく
 るであのりの
 松尾と後水庵の
 上まれこの後水庵の
 徳川の松の老木は
 小松を根つゆくと東西
 志の二景州の景を
 ミカトのひびきを
 春日局のひびきを
 ゆうめいもふくむ

○られてあきふ
 あらびうその
 るんぎの
 ありて三日のなぞ
 生目の夜ふりて
 瑞府あきふ
 本陣を
 ちのらん
 とせられに
 まさお
 酒井雅楽
 海とある
 されあそび
 のひていり色
 根木陣の
 あせうまの
 ちんのまの
 春の
 春の
 ら
 ら
 ら

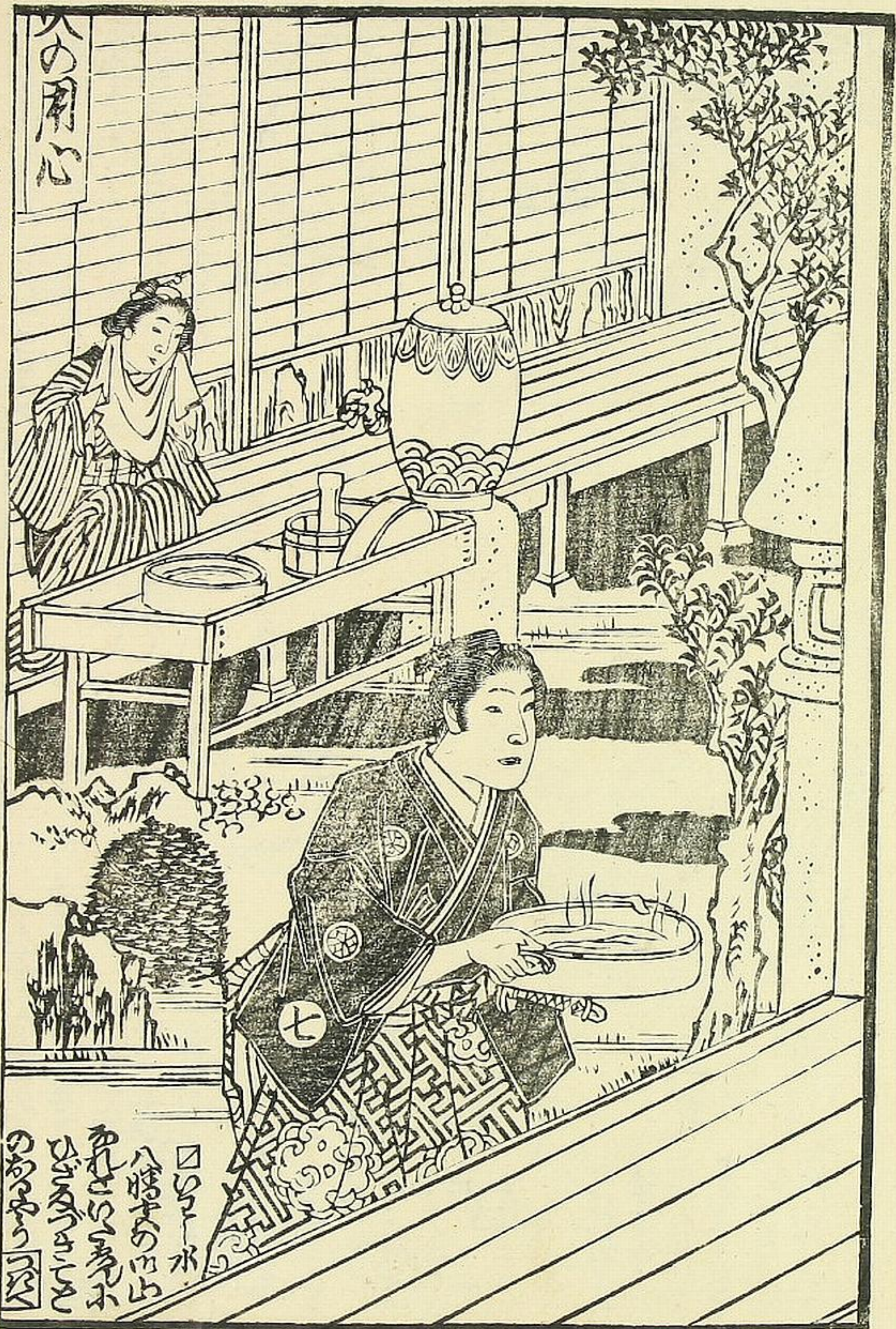
J6902591

景 橋 東 萬



を流り代毛
 世にうた人の
 あもん
 万身應賀

橋東景
 萬景



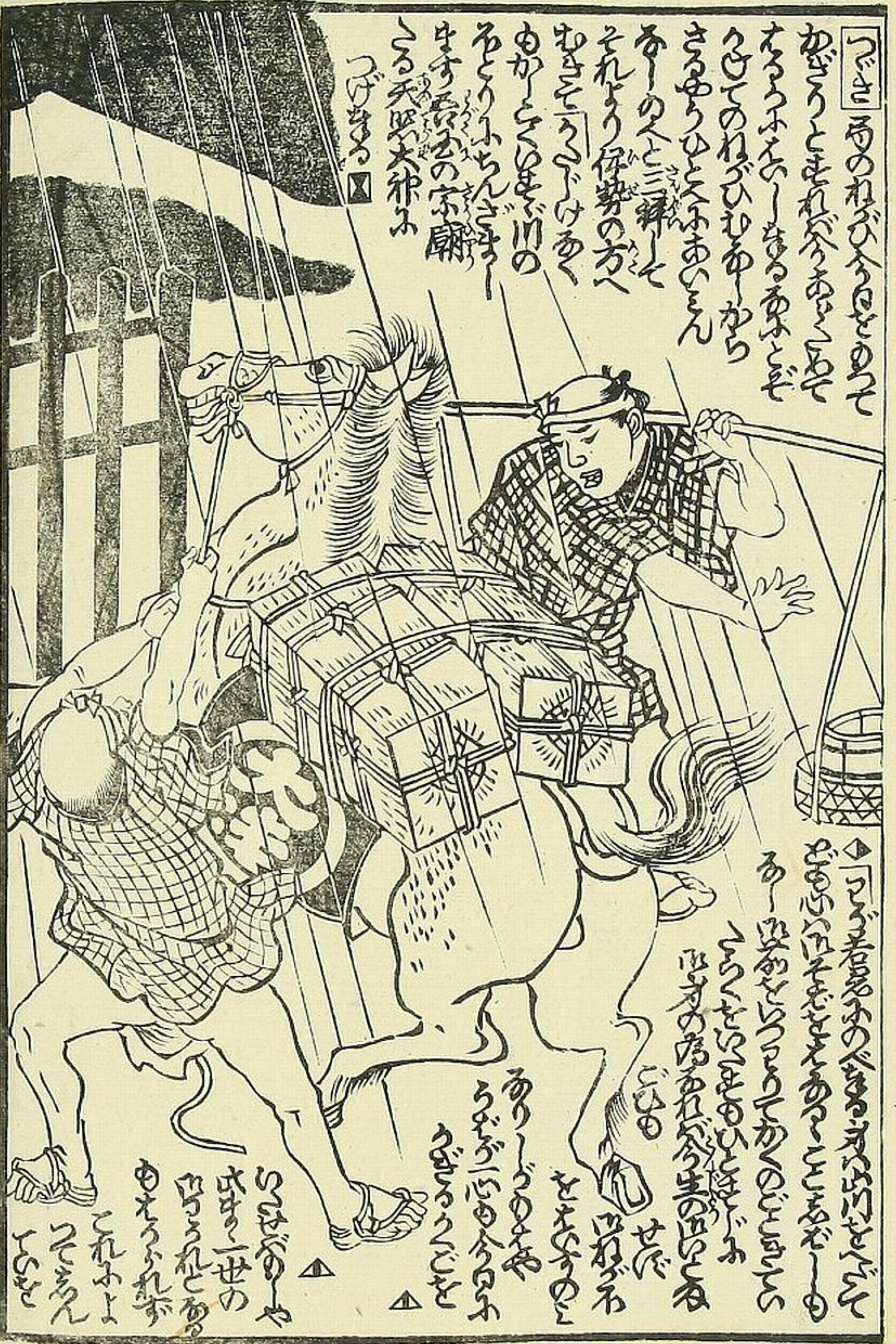
大の用
 大の用
 大の用
 大の用



大の用
 大の用
 大の用
 大の用
 大の用

大の用
 大の用
 大の用
 大の用

大の用
 大の用
 大の用
 大の用
 大の用



此の馬の背に荷物を乗せ
 走らせしむるは
 此の馬の背に荷物を乗せ
 走らせしむるは
 此の馬の背に荷物を乗せ
 走らせしむるは
 此の馬の背に荷物を乗せ
 走らせしむるは

此の馬の背に荷物を乗せ
 走らせしむるは
 此の馬の背に荷物を乗せ
 走らせしむるは
 此の馬の背に荷物を乗せ
 走らせしむるは

此の馬の背に荷物を乗せ
 走らせしむるは
 此の馬の背に荷物を乗せ
 走らせしむるは



此の馬の背に荷物を乗せ
 走らせしむるは
 此の馬の背に荷物を乗せ
 走らせしむるは
 此の馬の背に荷物を乗せ
 走らせしむるは

此の馬の背に荷物を乗せ
 走らせしむるは
 此の馬の背に荷物を乗せ
 走らせしむるは

此の馬の背に荷物を乗せ
 走らせしむるは
 此の馬の背に荷物を乗せ
 走らせしむるは
 此の馬の背に荷物を乗せ
 走らせしむるは

Vertical Text (Right Side):
 此の如くは世の中
 には是れが如き事
 なるべしと云ふは
 其の理に非ざる
 事なりと云ふは
 其の理に非ざる
 事なりと云ふは
 其の理に非ざる
 事なりと云ふは
 其の理に非ざる
 事なりと云ふは

Vertical Text (Left Side):
 此の如くは世の中
 には是れが如き事
 なるべしと云ふは
 其の理に非ざる
 事なりと云ふは
 其の理に非ざる
 事なりと云ふは
 其の理に非ざる
 事なりと云ふは
 其の理に非ざる
 事なりと云ふは

Vertical Text (Right Side):
 此の如くは世の中
 には是れが如き事
 なるべしと云ふは
 其の理に非ざる
 事なりと云ふは
 其の理に非ざる
 事なりと云ふは
 其の理に非ざる
 事なりと云ふは
 其の理に非ざる
 事なりと云ふは

Vertical Text (Left Side):
 此の如くは世の中
 には是れが如き事
 なるべしと云ふは
 其の理に非ざる
 事なりと云ふは
 其の理に非ざる
 事なりと云ふは
 其の理に非ざる
 事なりと云ふは
 其の理に非ざる
 事なりと云ふは

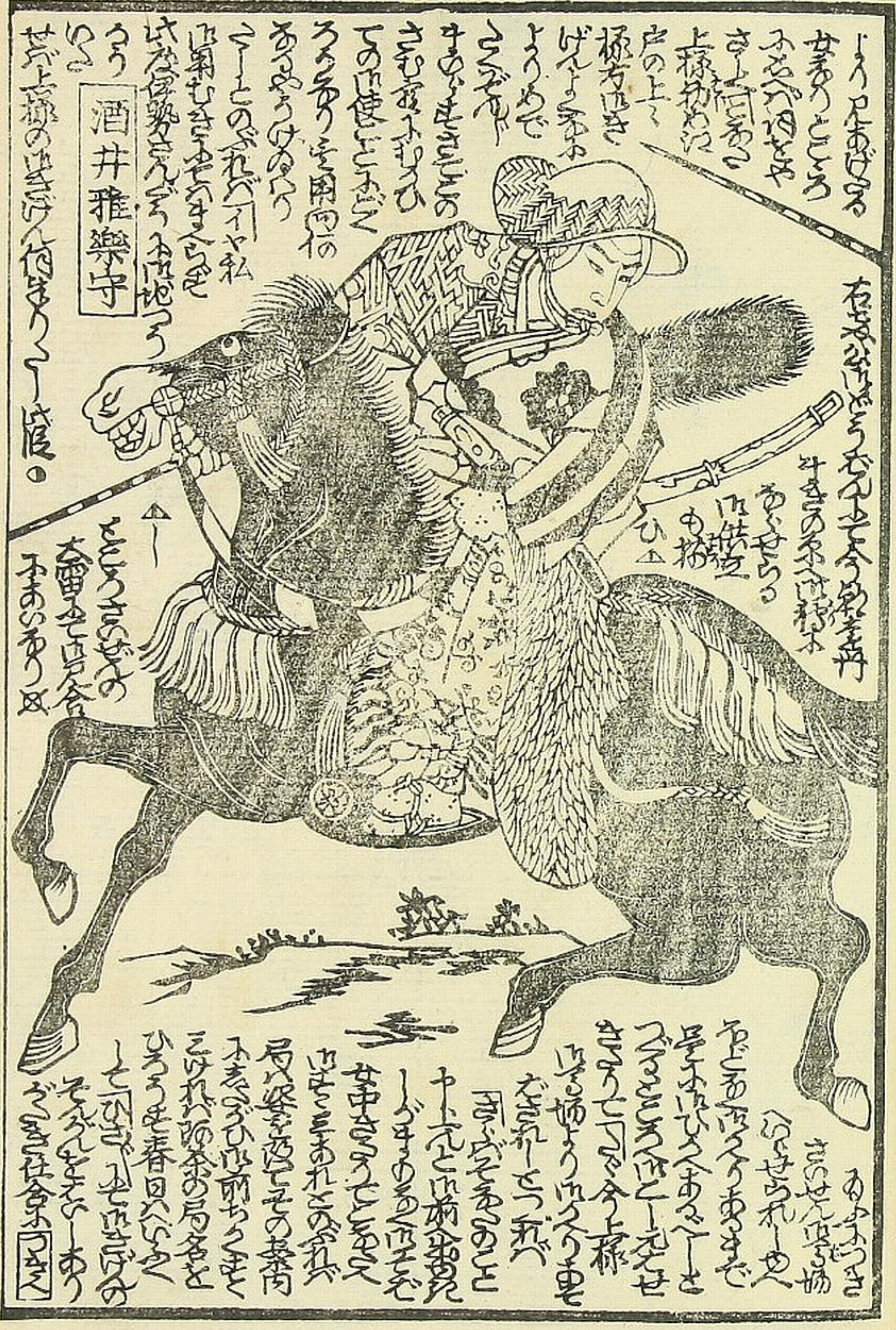


青山伯耆守
 伯耆守
 伯耆守
 伯耆守

伯耆守
 伯耆守
 伯耆守
 伯耆守

伯耆守
 伯耆守
 伯耆守

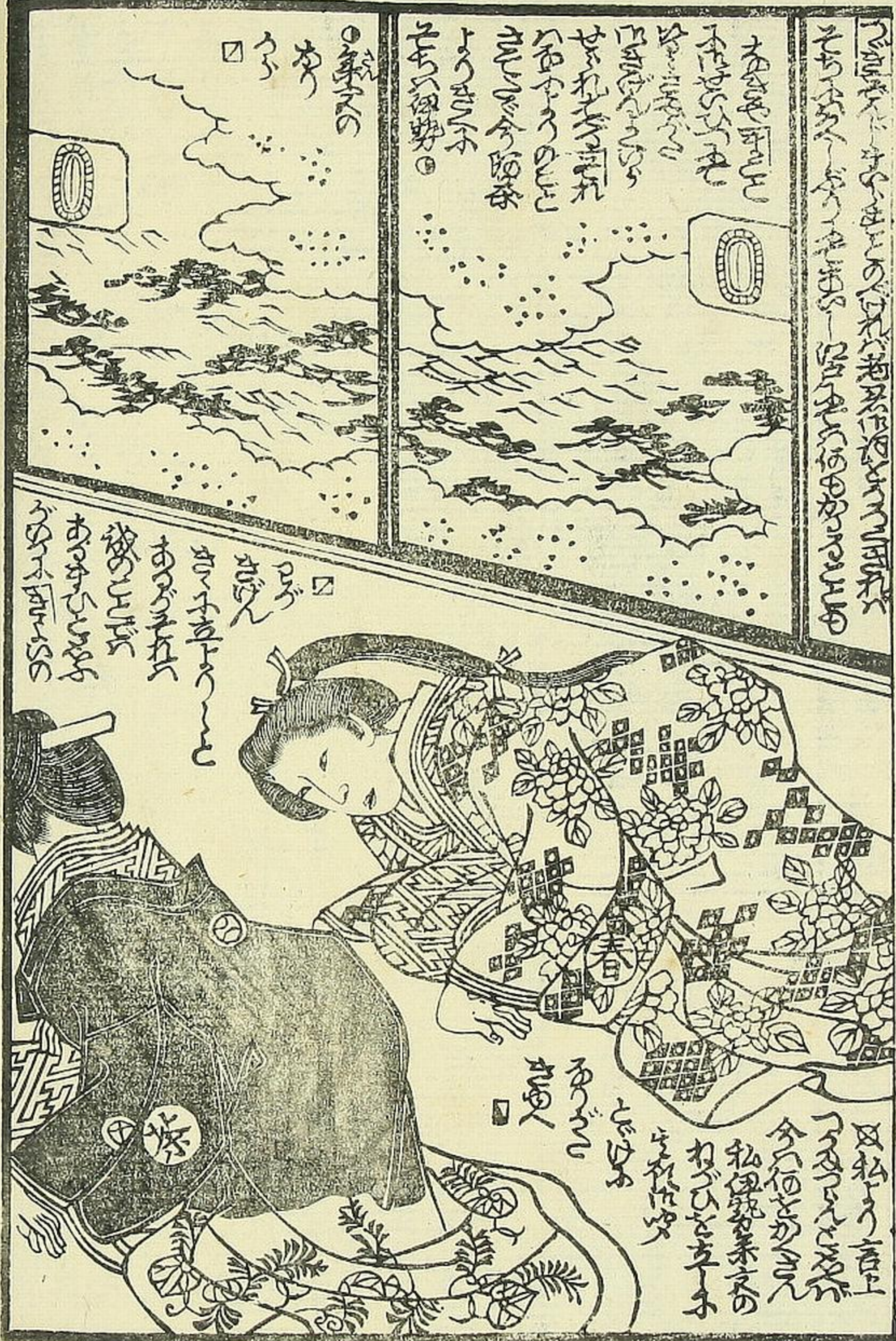
伯耆守
 伯耆守
 伯耆守



酒井雅樂守
 雅樂守
 雅樂守
 雅樂守

雅樂守
 雅樂守
 雅樂守
 雅樂守

雅樂守
 雅樂守
 雅樂守



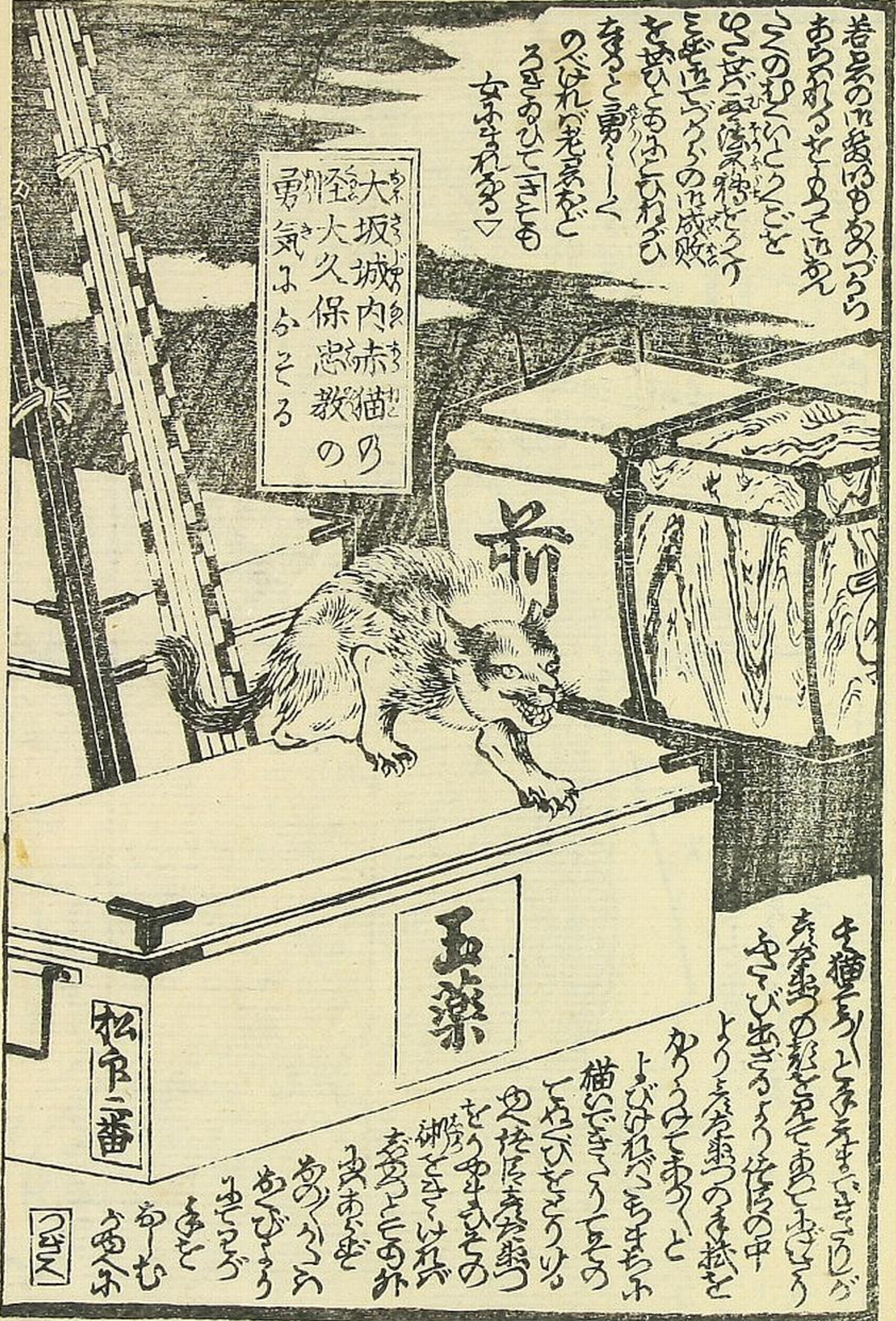
大坂城内赤猫の
勇気よふそる

大坂城内赤猫の勇気よふそる
大坂城内赤猫の勇気よふそる
大坂城内赤猫の勇気よふそる
大坂城内赤猫の勇気よふそる
大坂城内赤猫の勇気よふそる
大坂城内赤猫の勇気よふそる
大坂城内赤猫の勇気よふそる
大坂城内赤猫の勇気よふそる
大坂城内赤猫の勇気よふそる
大坂城内赤猫の勇気よふそる

大久保茂左衛門
大久保茂左衛門
大久保茂左衛門
大久保茂左衛門
大久保茂左衛門
大久保茂左衛門
大久保茂左衛門
大久保茂左衛門
大久保茂左衛門
大久保茂左衛門



大坂城内赤猫の
勇気よふそる

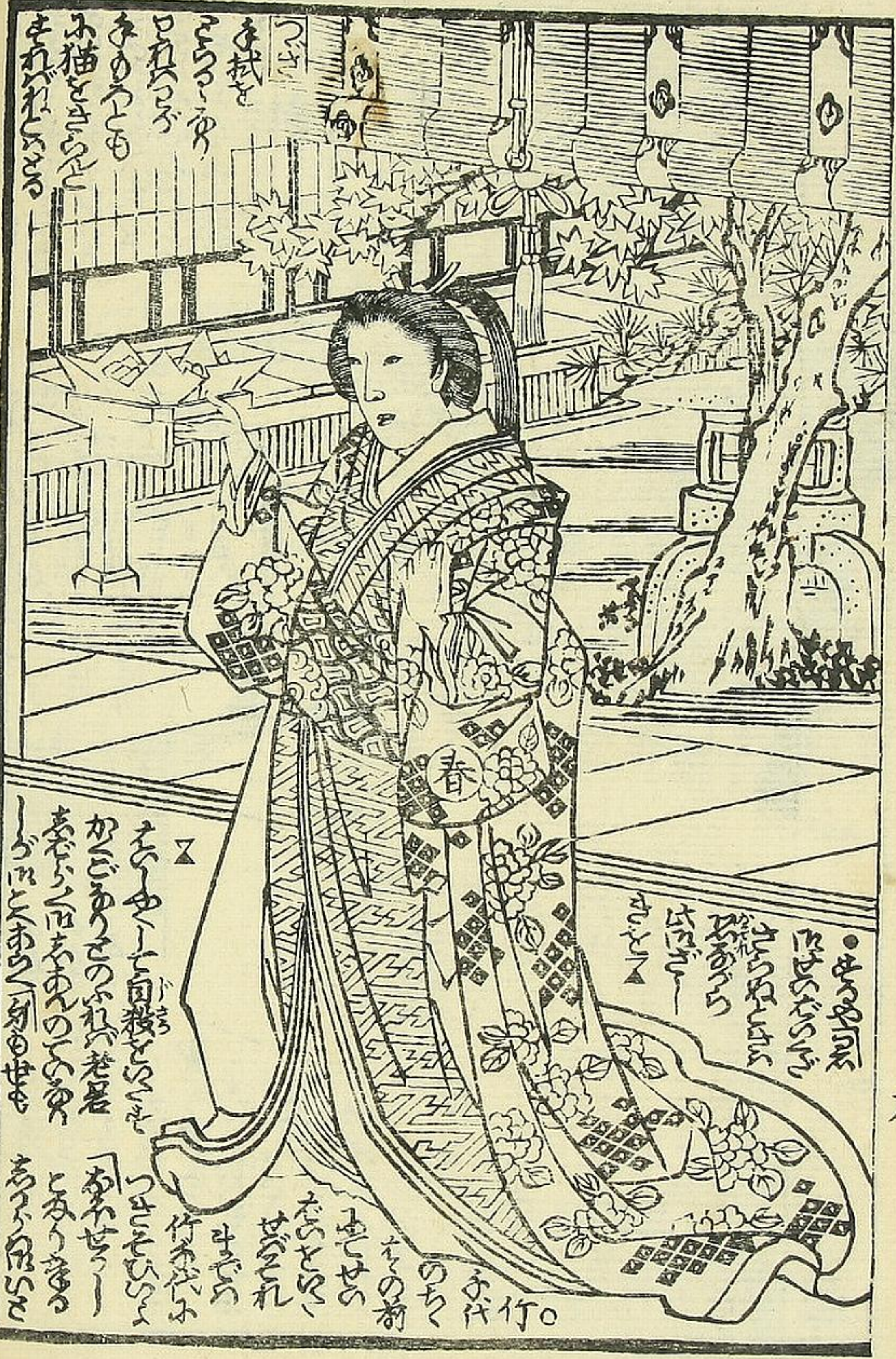


大坂城内赤猫の
勇気よふそる

大坂城内赤猫の
勇気よふそる

大坂城内赤猫の
勇気よふそる

大坂城内赤猫の
勇気よふそる
大坂城内赤猫の
勇気よふそる
大坂城内赤猫の
勇気よふそる
大坂城内赤猫の
勇気よふそる
大坂城内赤猫の
勇気よふそる
大坂城内赤猫の
勇気よふそる



春
 花
 鳥
 文
 様
 着
 用
 可
 也
 此
 着
 用
 可
 也

春
 花
 鳥
 文
 様
 着
 用
 可
 也

春
 花
 鳥
 文
 様
 着
 用
 可
 也

春
 花
 鳥
 文
 様
 着
 用
 可
 也



春
 花
 鳥
 文
 様
 着
 用
 可
 也

春
 花
 鳥
 文
 様
 着
 用
 可
 也

春
 花
 鳥
 文
 様
 着
 用
 可
 也



明良二葉抄 初編より追々出版

朝鮮異聞 四冊 續切

繪奉一代紀物 品々

上等色入小本 品々

地本錦繪 問屋 武川清吉

團扇

東京日本橋区本銀町二丁目角



明
二
系
竹
五
誦
萬
之
聖
心



萬
之
聖
心